

前後四ヶ月に亘る普戦健闘で労働階級の肥後の大勝を収めた
製鐵官民合同反對闘争の回顧と

強力新労働組合結成の急務

製鐵官民合同反對同盟願聞

伊 藤 卯 四 郎

△すさまじき労働階級の自主的組織に依る闘争の威力

前後四ヶ月に亘る製鐵官民合同反對運動は製鐵所全従業員の多大な物質的精神的犠牲と鐵の如く強力なる労働階級の一大結束を以て戦つた製鐵所創設以来の最大な大衆闘争であつた。製鐵所の全工場は夫々従業員の自主的な闘争機關を作り、その中から送り出された百八名の代表委員は大舉して上京し、當時閉會中の第六十四議會を目指して衆議院に貴族院に或は首相、総相、商相、海陸相、その他關係要路の數十の大臣、首局者に二萬数千名の製鐵所

従業員が署名調印した製鐵官民合同絕對反對の具体的理由を詳記した陳情書を突きつけ、滯京五十数日に亘つて火の燎うを猛運動が續けられたのであつた。

地許に於ては、この長期間、製鐵所の全工場に亘つて夫々戰場々々に闘争機關を設置しそれ等を統一、聯合して結成した製鐵官民合同反對同盟と鐵密なる連絡を以て、全従業員は何時如何なることをも決行し得る組織と統制と準備とを持つてゐた一大大衆運動であつてそれは完全に組織され、充分に訓練されてゐる労働組合と同様うな強力なる大衆闘争であつた。地元と中央―上京委員團―との緊密なる連絡、鋼鐵の如き統制、秩序ある運動全般に對しても亦、政府並に福岡縣警察部は脅威し驚嘆してゐたとのことである。これだけの組織と統制があり、全従業員が一度何事か爲さうと決心すれば如何なる事をも爲し得るであらうとの推斷